

ブルドックソース  
環境報告書 2004

## 環境報告書第1号発行にあたって

### 「幸福感」がすべての基準

私たちは、「お客様に幸福感を味わっていただける商品を提供する」ことを企業理念として掲げています。「幸福感」とは、お客様やご家族が毎日元気で暮らすことであり、これがすべての企業活動の基準となっています。安心できる商品をお届けし、さらに食を通じて「ほっとするおいしさ」「今までにない楽しさ」を提供することで、健康で幸福な暮らしのお役に立ちたいと考えています。

### 豊かな自然が企業を発展させる

私たちが扱っている商品は「自然の恵み」を原料とし、水やエネルギー資源を使ってつくられています。そのため事業の持続可能な発展は、これらの地球資源が守られ、持続可能な社会が実現していくことと一体です。私たち一人ひとりも環境の一部であり、地球環境を考慮した経営は当社の使命なのです。

### 2004年2月ISO14001を取得

ブルドックスでは、1999年に環境対策委員会を新設し、以来、廃棄物の削減、省エネルギーの徹底、CO<sub>2</sub>排出量の抑制等、環境負荷の低減に努めてきました。そして2003年には、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001取得に向けた推進体制を構築し、2004年2月に本社、鳩ヶ谷工場、館林工場の全サイトで認証を取得しました。このシステムを活かしてさらに環境活動を強化していくためには、社員一人ひとりの意識を高めることが必要と考え、現在は、年間の教育計画を策定し、それに基づく訓練を実施しています。

### お客様に愛される企業を目指して

ブルドックスは、お客様との強い信頼の絆を持つ、愛される企業を目指しています。そのためにも、今まで以上に省エネルギー、廃棄物の削減を進めるとともに、環境に配慮した商品の構成比や資源のリサイクル率を高めていきます。そして、社会への貢献活動、食文化にかかわる情報発信を積極的に行っていきます。

ブルドックスの環境保全活動に皆様のご理解をいただくとともに、忌憚のないご意見・ご助言を賜れば幸いです。

2004年11月

ブルドックス株式会社  
代表取締役社長

池田 章子



ブルドックソース株式会社は、経営理念である「幸福感を味わえる商品の提供」を実践するため、地球環境保全および地域の環境保全に取り組んでいます。そして、環境パフォーマンスの継続的改善のため、ISO14001に適合した環境マネジメントシステムを構築し、社員全員にこれを徹底し、継続的かつ効果的な運用に努めています。

## ブルドックソース経営方針

1. 幸福感を味わえる商品の提供
2. 創造と革新
3. 人間尊重

## ブルドックソース環境方針

ブルドックソースは、地球の恵みに感謝し、安心な食品づくりを通じて人々が毎日元気で暮らせるよう、社員一人ひとりが地球環境の保全に配慮した活動を進めていきます。

### 1. 環境に配慮した企業活動を自主的、継続的に取り組みます。

環境負荷低減の取り組みを着実に実行するため、環境目標を設定して積極的な環境保全活動を継続的に推進します。

### 2. 環境に配慮した商品化計画を推進します。

環境に十分配慮した商品設計、商品の見直しを行い、環境保全に貢献します。

### 3. 環境関連法規及びその他要求事項を遵守し、環境汚染の予防に努めます。

化学物質の適正管理、公害対策等法規制を包含し、地域に応じた社内管理基準を遵守します。

### 4. 省資源、省エネルギーを推進します。

自主基準を定め、省資源・省エネルギーに積極的に取り組みます。

### 5. 容器・包装リサイクルを推進します。

副資材の減量化と再資源化に努め、効率的なりサイクルシステム作りに貢献します。

### 6. 食品リサイクルを推進します。

食品残さの減量化と再資源化に努め、効率的なりサイクルシステム作りに貢献します。

### 7. グリーン調達を推進します。

原料、副資材、事務用品、販促広告物等の購入については、環境に優しい素材への変更に努めます。

2004年2月3日

ブルドックソース株式会社

代表取締役社長 池田章子

# 環境マネジメント Environmental Management

ブルドックソースは、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築・運用しています。

## 環境マネジメントシステム

### 循環型社会形成を目指し ISO14001 認証を取得

ISO14001登録証

循環型社会形成を目指し、従来から3R\*に基づき、身近なところからゴミの分別・削減、再生紙利用等を実行してきました。その上で、2003年度から環境マ



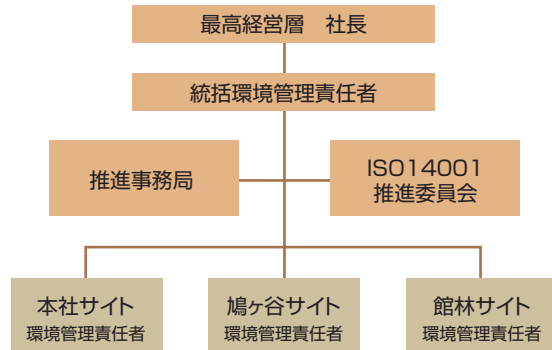
ネジメントシステムの国際規格であるISO14001に基づく環境保全活動に取り組み、2004年2月に本社および鳩ヶ谷・館林両工場が、ISO14001の認証を取得しました。

※3R……Reduce (リデュース：廃棄物の発生抑制)、Reuse (リユース：製品の再使用)、Recycle (リサイクル：再生資源の利用)の頭文字をとったもの

## 環境組織体制

### 定期的見直しによるPDCAサイクルの運用

最高責任者である社長が、統括環境管理責任者と、本社・鳩ヶ谷工場・館林工場それぞれの環境管理責任者を任命し、環境マネジメントシステムを運用しています。最高経営層によるマネジメントレビューや、内部環境監査チームによる年2回の監査等により定期的な見直しを行い、PDCA\*サイクルにのっとり継続的改善を図っています。



※PDCA……Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(見直し)を1周期とする環境マネジメントシステムの運用サイクル

## 環境教育

### 年間の環境教育計画に基づく環境意識の向上

年間の環境教育計画に基づき、内部環境監査員の養成教育、新入社員への環境教育、社員への専門教育、各サイトにおける緊急事態への対応訓練等を、社内および社外専門機関を活用し実施しています。今後は、社員の家族および取引先へと、環境への取り組みを広げていきたいと考えています。



環境教育風景



緊急事態への対応訓練風景

## グリーン購入

### 購入品リストによるグリーン購入の推進

事務用品などを対象として、環境への負荷が少ない購入品のリスト(グリーン購入品リスト)を作成し、グリーン購入を積極的に推進しています。2003年度のグリーン購入率実績は、約70%でした。工場従業員の作業服も、グリーン購入の考えに基づくPET樹脂原料を使用したリサイクル品です。



PET再生樹脂の作業服

## 環境コミュニケーション

### 環境報告書発行から積極的な環境情報の発信へ

昨年度までは、環境への取り組みを「社内版環境レポート」としてまとめ、社員への環境情報の共有化を図ってきました。本報告書発行をスタートラインとし、今後は社外への環境情報発信を積極的に行い、皆様からのさまざまなご意見を取り入れて当社の活動に反映させていきたいと考えています。

Voice from Bull-dog

### 自然環境と事業の 持続可能な発展を目指して

統括環境管理責任者

取締役 鳩ヶ谷工場長 青木 正

私どもの事業は、自然環境からの恵みと、ソース製造販売活動を通じた、さまざまな方々との関わりで成り立っております。

その社会的責任を果たすため、環境保全活動に積極的に取り組むとともに、お客様、地域社会、その他多くのステークホルダーの皆様との信頼関係をさらに強めていけるよう努めております。私どもが目指しているのは、自然環境と事業の持続可能な発展です。



Voice from Bull-dog

### 環境への意識付けを 小さな取り組みから

本社サイト環境管理責任者

総務部長 佐藤貢一

全社で環境に取り組んでいくためには、社員の環境への意識付けが非常に大切です。具体的には、無駄な照明を消すことやコピー用紙の無駄遣いといった細かいチェックから、社員の意識付けを徹底しています。また、各部門から選任された環境推進メンバーが定期的な会議で環境問題を学び、彼らを通じてそれぞれの部門内の社員に広げていく形をとっています。



# ブルドックソース事業と環境との関わり Environmental Performance

ブルドックソースの事業活動は、自然環境とさまざまなステークホルダーとの関わりの上に成り立っています。私たちは、ライフサイクルにのっとった環境負荷低減に取り組んでいます。

## 原料の安全性

ソースの原料は新鮮な自然の恵み

ソースは、トマト、タマネギ、ニンジン、リンゴなどの野菜・果物と、たくさんの種類の香辛料からできています。ソース独特の味と香りが、さまざまな料理にマッチする理由が、ここにあります。自然の恵みの栄養素をたくさん含むソースを、皆様に安心して食べていただくために、ブルドックソースは安全性の高い原料を調達しています。



ソース原料の野菜・果物・香辛料



安全性の高い原料を調達

## 商品の環境配慮設計

企画・開発段階から環境負荷を低減

環境に配慮した商品設計推進のための手順書やチェック表を作成しています。商品が使われるお客様の利便性に加え、容器包装の減量化や再資源化等、企画・開発段階からの見直しにより、環境負荷低減に取り組んでいます。

## 省資源・省エネルギーの推進

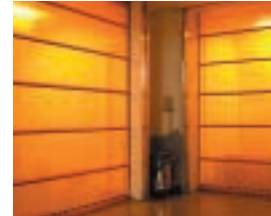
効率のよい設備導入と製造工程全体の見直し

効率のよい設備（コンプレッサー、ボイラー等）の導入や、製造工程全体の見直しによる蒸気や水の節減に努めています。また、常時消灯箇所の設定や電気使用量が設定したレベルを超えると警報が鳴るデマンド管理の採用など、電気使用量の削減に取り組んでいます。

## 衛生管理の徹底

HACCPに対応した衛生管理体制

ブルドックソースの工場では、整理・整頓・清掃・清潔・躰の5Sを全社員で徹底しています。また、工場内を3つの管理区域（清潔区域、準清潔区域、汚染区域）に区分した構造で、HACCPに対応した衛生的な空間を保っています。さらに、工場内を人・物・空気の流れを考えた効率的なレイアウトにしています。



原料・副資材用エアシャワー



従業員用エアシャワー

## 環境関連法の遵守

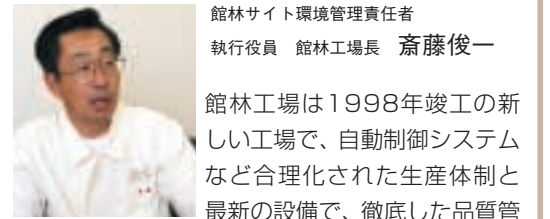
定期的なモニタリング管理で法規制を遵守

当社の事業活動が該当する環境保全に関する法律には、廃棄物処理法、水質汚濁防止法、騒音規制法などの法規制および自治体の条例基準（埼玉県生活環境保全条例、群馬県生活環境保全条例）があります。これら環境関連法については、定期的なモニタリング管理を行い、法令遵守を徹底しています。



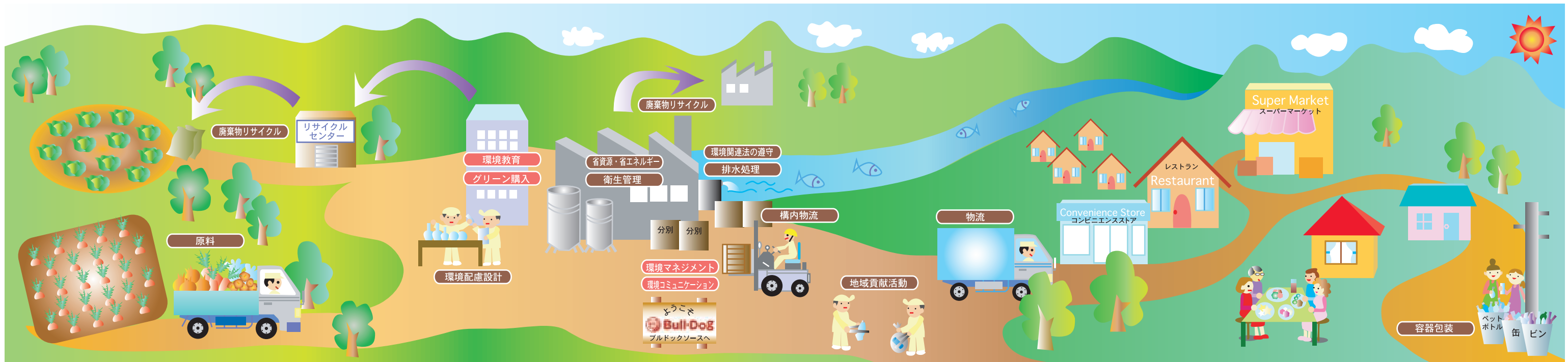
排水処理設備による浄化処理

## Voice from Bull-dog 徹底した衛生管理と館林市との協定遵守

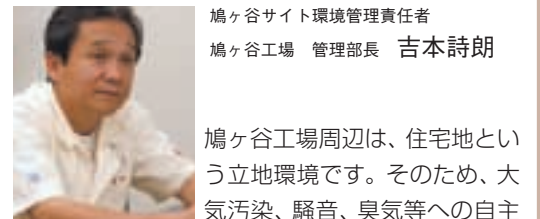


館林サイト環境管理責任者  
執行役員 館林工場長 斎藤俊一

館林工場は1998年竣工の新しい工場で、自動制御システムなど合理化された生産体制と最新の設備で、徹底した品質管理と衛生管理を行っています。館林市は、市自身がISO14001を取得し、周辺環境に関する法規制がかなり厳しい立地条件です。その点、工場からの廃棄物削減を常に心がけ、排水処理設備などで、館林市との公害防止協定書による規制値を遵守する体制を維持しています。



## Voice from Bull-dog 地域の方々と共存できる工場を目指して



鳩ヶ谷サイト環境管理責任者  
鳩ヶ谷工場 管理部長 吉本詩朗

鳩ヶ谷工場周辺は、住宅地という立地環境です。そのため、大気汚染、騒音、臭気等への自主的な対策を行い、地域の方々と共存できる工場としての努力を続けています。さらに、周辺の定期的な清掃活動や地域イベントへの参加、地元の納涼祭主催など、地域貢献活動にも活発に取り組んでいます。鳩ヶ谷工場の工場見学は、地元小学校の社会科の恒例行事になっているほどです。

## 廃棄物の削減

廃棄物の減量化と分別排出による再資源化

工場では、生産工程における歩留まりの向上やシステムの見直しにより、またオフィスでは、事務用品の再使用やマイカップ持参により、廃棄物減量化に取り組んでいます。さらに分別排出することで、食物残さ、原材料缶、製品のPET容器、ラベルや段ボールを、それぞれ肥料、鉄くず、PET樹脂、再生紙などに再資源化しています。また、廃棄物処理業者に関しては、その適切処理をマニフェストで確認し、さらに毎年1回の処理現場視察も行っています。



原材料缶は鉄くずに



ラベル残紙は再生紙に

## 容器包装への取り組み

「容器包装リサイクル法」への対応

ソースのプラスチック容器は飲料容器と同じPET素材ですが、清涼飲料とは異なり、「容器包装リサイクル法」では「その他プラスチック容器」として取り扱われています。ブルドックソースは、容器使用事業者として、この法律に基づく再商品化委託費用を負担しています。



PET容器のソース製品

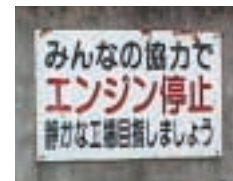
## 構内物流の環境配慮

電気式フォークリフトに全面切り替え

工場内のフォークリフトは、すべて排気ガスを出さず音も静かな電気式に切り替えました。また、納入・配送を委託している業者への協力を呼びかけ、構内での車両のアイドリングストップや構内走行時速10km未満の徹底など、安全対策とともに、CO<sub>2</sub>排出量削減と騒音防止にも努めています。

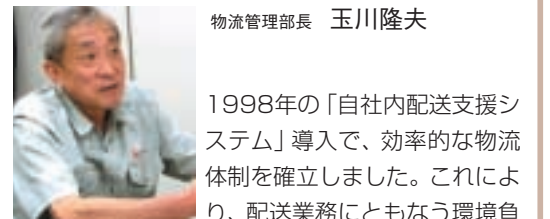


電気式フォークリフト



アイドリングストップの呼びかけ

## Voice from Bull-dog トラック利用台数をピーク時の半分に削減



物流管理部長 玉川隆夫

1998年の「自社内配送支援システム」導入で、効率的な物流体制を確立しました。これにより、配送業務にともなう環境負荷も大幅に低減されました。大口の遠距離配送は、大量輸送が可能な鉄道、船などのモーダルシフトへ移行し、小口の近距離配送は、共同配送の利用で積載量を向上させました。この効果で、物流全体としてのトラック利用台数は、ピーク時の半分にまで削減されました。

# 取り組みの成果と今後 Performance Data

中期目標の下、製品の生産・販売にともなうエネルギー使用量と排出物削減に取り組んでいます。



## 中期目標と2003年度実績

### 中期目標達成に向けた2003年度の総括

ブルドックスは、2005年度を中期目標と定め、事業活動にともなう電気使用量、用水使用量、重油使用量の削減、ならびに廃棄物リサイクル率の向上に取り組んでいます。2003年度は、電気使用量と廃棄物リサイクル率

において目標を達成しましたが、用水使用量と重油使用量は達成できませんでした。以下、その詳細と2004年度目標です。

### 2003年度の実績と今後の目標

	中期目標 (2005年度目標) <sup>※1</sup>	2003年度			2004年度目標
	目標 <sup>※1</sup>	実績 <sup>※1</sup>	評価 <sup>※2</sup>		
電気使用量	11%削減	3%削減	6%削減	○	9%削減
用水使用量	6%削減	2%削減	0.8%増	×	4%削減
重油使用量	4%削減	3%削減	2%増	×	3%削減
廃棄物リサイクル率	83%	70%	78%	○	79%

※1…目標および実績は、すべて2002年度実績に対する比率です。 ※2…評価基準…100%達成：○、80%達成：△、80%未満：×



## IN PUT/OUT PUTデータ

### 3年間の経年推移にみる取り組み成果と課題

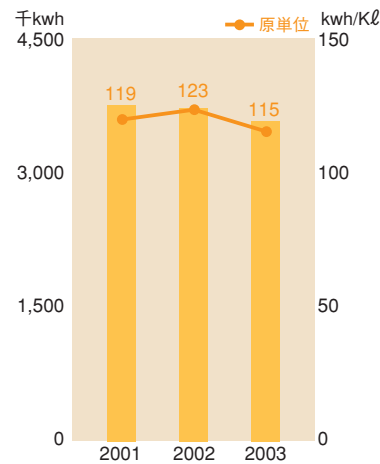
エネルギー使用量においては、2003年度実績からも明らかに、電気使用量は着実な削減成果をあげています。また、廃棄物量とそのリサイクル率も、目標以上の

成果を重ねています。今後は、用水使用量と重油使用量について、さらに削減への取り組みを強化していきます。

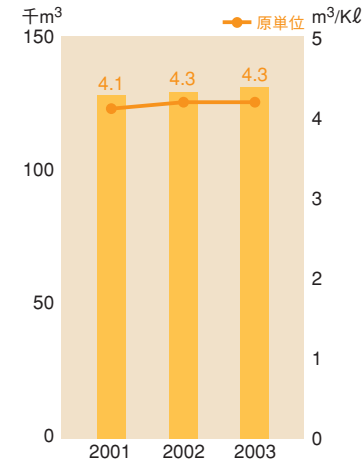
※CO<sub>2</sub>排出量は、電気・燃料(重油・ガソリン・プロパンガス)使用量より算出しています。



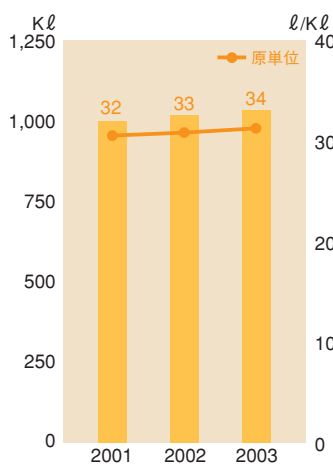
電気使用量経年推移



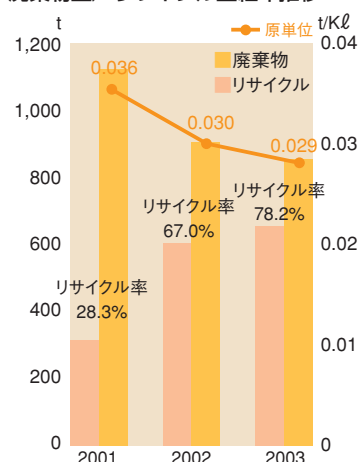
用水使用量経年推移



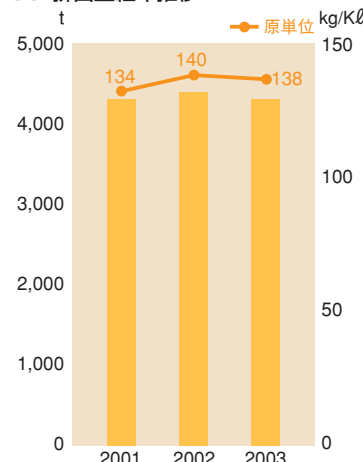
重油使用量経年推移



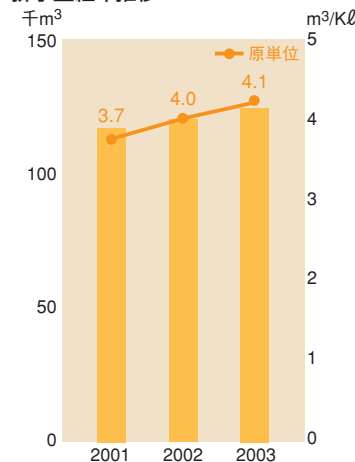
廃棄物量/リサイクル量経年推移



CO<sub>2</sub>排出量経年推移<sup>※</sup>



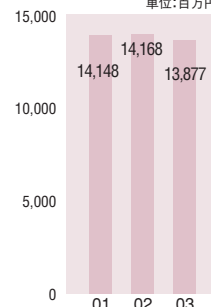
排水量経年推移



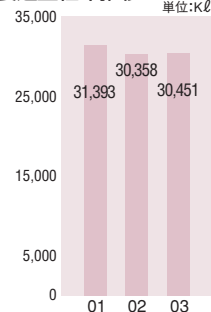
# 会社概要と沿革 Corporate Profile

会社概要	社名	ブルドックソース株式会社 BULL-DOG SAUCE CO.,LTD.	
	創業	1902年(明治35年) 食品卸商三澤屋商店開業	
	設立	1926年(大正15年) 9月21日	
	事業内容	ソースを中心とした調味料類の製造・販売	
	資本金	10億4,437万8,250円(平成16年3月現在)	
	従業員数	268名(平成16年3月現在)	
	事業所	本社	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-5
		東京支店	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-5
		広域量販支店	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-5
		関東支店	〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷4-2-20 近藤ビル7階
		札幌支店	〒003-0025 北海道札幌市白石区本郷通5丁目北5-1
		仙台支店	〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町1-4-6
		大阪支店	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-9-27 新大阪マイコービル8階
		福岡支店	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1-12-56 八重洲天神ビル3階
		業務用推進部	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-5
		研究所	〒334-0011 埼玉県鳩ヶ谷市三ツ和3-6-1
		鳩ヶ谷工場	〒334-0011 埼玉県鳩ヶ谷市三ツ和3-6-1
		館林工場	〒374-0072 群馬県館林市新大田町61-5

売上高経年推移 単位:百万円



製造量経年推移 単位:kℓ



沿革と環境活動のあゆみ	1902年	食品卸商三澤屋商店開業
	1905年	ソースの製造販売開始
	1926年	ブルドックソース食品株式会社設立
	1935年	鳩ヶ谷工場を新設
	1962年	ブルドックソース株式会社に改称
	1973年	株式を東京証券取引所市場第2部に上場
	1985年	株式会社サンワフーズを設立
	1998年	館林工場を新設
	1999年	環境対策委員会を新設
	2000年	館林工場がISO9002認証取得
	2004年	本社、鳩ヶ谷工場、館林工場がISO14001認証取得



本社



鳩ヶ谷工場



館林工場

発行・お問い合わせ



## Bull-Dog

ブルドックソース株式会社

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町11-5

TEL: 03-3668-7519

FAX: 03-3666-5943

URL: <http://www.bulldog.co.jp>

### 編集方針

本誌は、ブルドックソース株式会社として、第1回目の発行となる環境報告書です。全8ページの簡易版とし、当社の事業活動と環境負荷低減への取り組みをわかりやすくお伝えできるよう構成しました。なお、本報告書の作成にあたり、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考としています。

■報告対象事業所: 本社、鳩ヶ谷工場(研究所、物流管理部、サンワフーズを含む)、館林工場

■報告対象期間: 2003年4月1日～2004年3月31日(一部対象期間外も含まれます)

■発行年月: 2004年11月発行(次回2005年9月発行予定)

